看土佐 Wave 来这里
http://tosawave.blogspot.jp/

Tosa Wave

An Information Magazine for the International Community in Kochi

中国語生活情報冊子「土佐 Wave（中国語版）」2015 年 10 月号（Vol.14）　発行：公益財団法人高知県国際交流協会

″土佐匠人″
「土佐の匠」

高知县对于那些支持县内产业基础，为产业振兴做出贡献的熟练技术者以及那些传承古代传统技能的优秀人才，都会授予“土佐匠人”的称号。此次，我们将介绍其中的三位匠人，分别是野岛幸一郎先生（2004 年：造园）、谷信一郎先生（2010 年：制作陶器）、吉川毅先生（2011 年：染色工艺）。

県内産業の基盤を支え、その振興に貢献している熟練技能者や、古くから受け継がれてきた伝統技能の優れた継承者が「土佐の匠」として高知県に認定されています。今回は、野島幸一郎さん（平成 16 年度：造園）、谷信一郎さん（平成 22 年度：陶器製造）、吉川毅さん（平成 23 年度：染色工芸）の 3 人の匠を紹介します。

土佐匠人
野岛　幸一郎先生（造园·高知市）

在药师堂附近，新布置的点景石与庭园树
薬師堂近くのスペースに庭石や庭木を新たに入れました

以结婚为契机，踏入园林的世界已有 40 余载。野岛幸一郎先生作为园林设计与建造的手工艺人，不仅技术卓越，还因致力于培养园林艺术接班人得到认可，于 2012 年成为县内第 39 个被选为“现代名工巧匠”的人。并且，他还作为县内为数不多的“树木医生”大展身手。

野岛先生学习造园知识是从零开始的。最开始他只能手握扫帚，将修剪后掉落的枝叶清扫干净。他一边清扫，一边观察匠人前辈修剪的成果，牢记修剪的技巧与方法。渐渐的，他可以手持大剪刀，修剪那些已经有固定形状的矮树篱笆。几年后，他终于可以手持小剪刀自己进行设计了。

野岛先生说，在他漫长的职业生涯中，庭园设计理念也发生了很大变化。就个人住宅而言，以前多采用点景石与人工修剪好的庭园树来装饰，但是现在的设计主流基本不再布置点景石，更多园艺师选择不太需要修剪的庭园树，比如能够体现出季节感的落叶树等。另外，很多家庭为了增加车库面积，会缩小庭园的面积。

野岛先生认为造园的魅力在于“从零开始建造”。从来不会有两座使用相同的材料，建得一模一样的庭园。如果有 10 个匠人，就会建造出 10 种不同风格的庭园，在造园中没有规定正确答案。因此，他经常会对年轻的园艺师说，要坚持自己的原则，敢于说“如果是我的话，我会这样设计”。

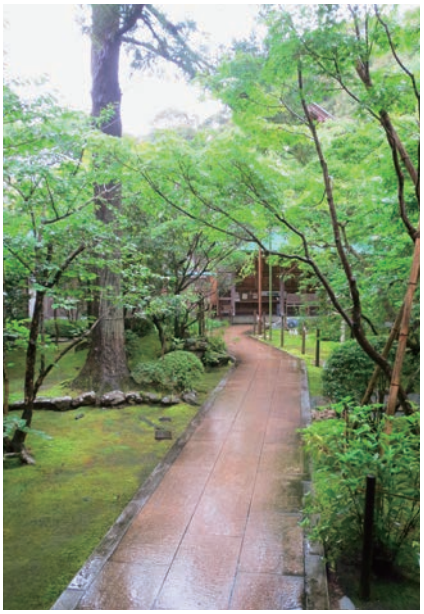
土佐の匠
野島　幸一郎さん（造園・高知市）

結婚を機に造園の世界に飛び込んで早40数年。造園の匠である野島幸一郎さんは、その優れた技術のみならず、後継者育成への貢献も認められ、2012年には県内で39人目となる「現代の名工」に選ばれました。また、県内でも数少ない「樹木医」としても活躍されています。

造園に関する知識はゼロの状態で修業が始まった野島さんが最初に手にしたのは、剪定されて落ちた葉や枝を掃除するためのほうきでした。掃除をしながら、先輩職人が剪定しているところを見て、切り方を覚えていったそうです。そのうち、大きなハサミを持って、生け垣などすでに形ができ上がっているものから剪定を始め、数年後に小さいハサミをも持たせてもらえるようになりました。

野島さんの長いキャリアの中で、庭造りもずいぶん様変わりしたといいます。個人住宅に関して言えば、昔は、庭石や仕立て木（人工的に幹や枝の形を整えた庭木）を多用した庭造りが主流でしたが、今では庭石を入れることはほとんどなく、メンテナンスがあまり必要でない庭木、例えば季節感が出る落葉樹などを入れることが多くなりました。また、ガレージのスペースを広く取るようになったため、庭自体のスペースが狭くなっているのだそうです。

野島さんの考える庭造りの魅力は、「ゼロから造り上げる」ところ。同じ材料、同じ現場は2度となく、10人の職人がいれば、10通りの庭ができるように庭造りには正解がありません。そのため、「自分だったらこうやる」とこだわりを持つよう、若手職人を指導しているそうです。



根据住持的要求重新建造的绿色隧道与使用花岗岩重新铺设的通往纳经所的板石参拜道路
ご住職の希望で造られた緑のトンネルとミカゲ石の板石を敷き直した納経所までの参道

此次，承蒙野岛先生厚意，带领我们参观了他亲手设计建造的位于野市町的第 28 所寺庙・大日寺中的庭园。5 ～ 6 年前，他受住持之托开始建造寺庙的庭园。庭园与山中寺庙的氛围相协调，尽可能保留了原来的树木与原来的自然环境，能够让人置身其中感受到绿色带来的宁静与舒适。并且，在里院内的踏脚石上放置有一块关守石，寓意“前方区域禁止入内”，庭院中也多采用点景石，随处可见寺庙特有的情趣。

庭园并不是刚建好时漂亮就行了，还需要经得住 10 年 20 年岁月的考评，所以建造完成后还要变得越来越美丽。因此在建造庭园时还需要考虑到庭园树未来的成长状态等要素。

野岛先生说，“庭园是缩小版的自然”。他非常喜欢使用高知当地的树木与石头，热衷于地产地销的庭园建造。今后还希望能设计面向老年人的无障碍庭园。野岛先生对于设计与建造庭园的热忱似乎永无止境。

正在指导布置庭院石作业的野岛先生（右）

石組み作業を指示する野島さん（右）

今回、ご厚意により、野島さんが手掛けられている野市町にある28番札所・大日寺の庭を案内していただきました。ご住職からの依頼で、5～6年前から庭造りが始まりました。山寺らしく元々ある木々を生かしながら、自然を多く残しているため、緑の心地良さと落ち着きが感じられます。また、中庭の飛石の上に「この先の立ち入りはご遠慮ください」との意味を持つ関守石が置かれていたり、庭石が多く使われていたりと、お寺ならではの趣が随所に見受けられました。

庭は、完成したときがベストなのではなく、10年20年先に評価されるものであり、完成してから右肩上がりによくならないといけないのだそうです。庭木の成長も計算に入れながら庭は造られているのですね。

「庭は自然の縮小」だと語る野島さんは、高知県産の樹木や石を使った地産地消の庭造りがお好みだそうで、今後はバリアフリーに目を向けた高齢者向けの庭造りにも取り組んでいきたいとのこと。野島さんの庭造りへの思いは、とどまるところを知らないようです。

土佐匠人
谷　信一郎先生（制作陶器・高知市）

练土的情景。
泥中的黏土部分会通过水槽从右侧流入左侧水池，沉淀在底部

土づくりの様子。
土の中の粘土質が水路を通って右側から左側へ移動し沈殿する

谷先生 15 岁时开始踏上这条人生之路。最开始制作陶器时，并不能如愿成形，反复制作失败不断练习。就这样过了 4 年后，终于第一次成功制作出一个陶杯，据说那份欣喜至今难以忘怀。现在，在家人的帮助下，他成为江户时代延续至今的谷制陶所(高知市鸭部）的第五代传人。

1653 年，为了向诸侯进献陶器，受土佐藩主山内氏之命，在高知市小津首开尾户烧的陶窑。明治时期，陶窑转变为民间经营。尾户烧的陶窑即使在数量最多时也只有 6 家，与全国的陶器产地相比，属于小规模的品种。据说全国很多陶器制作都是采取分工作业的形式，但是谷制陶所负责从练土到烧成的全部工序，延续江户时代传统的手工作业方法。

尾户烧是在温度约 1250℃的陶窑中，使用具有黏土性质的能茶山上的泥土烧制而成的。首先需要历经数月，去除黏土中的小石子与砂子，再将黏土放入素烧过的盆钵内一段时间，让钵体吸收黏土中的水分。这个做法充分利用了素烧陶器具有透水性的特点。之后，为了将泥土中的空气挤压出来需要用手揉搓。这个工序又被称为“菊花练土”，需要十足的体力与技巧。看着陶工将重约 10kg 的土块在手中翻转，有韵律地揉搓挤压，练好的泥土呈现菊花花瓣一样的波纹，着实令人感动! 拉坯工序基本使用陶轮完成。我们出神地看着陶工轻而易举地拉出茶碗

土佐の匠
谷　信一郎さん（陶器製造・高知市）

谷さんがこの道に入ったのは 15 歳の時です。最初は思うように成形ができず、作っては壊すことを繰り返して練習を重ねました。それから約 4 年が経った頃、初めて製品としての杯を卸すことができた時の喜びは忘れられないそうです。現在は、家族の協力のもと江戸時代から続く谷製陶所（高知市鴨部）の 5 代目を担っています。

尾戸焼の窯は1653年に土佐藩主山内家の命によって高知市小津で開かれ、大名へ献上するために製造されていましたが、明治になって窯は民営化されました。尾戸焼の窯は、数が多い時でも約 6 軒で、全国の焼き物の産地と比べると小規模なものです。全国では分業をしているところも少なくないそうですが、谷さんは土作りから本焼きまで一貫して行っています。江戸時代から変わらない、昔ながらの手作業です。

尾戸焼は、1250℃の窯の熱に耐えられ、かつ粘土質である能茶山の土で作陶されます。数か月かけて、土の中の粘土の部分から小石や砂を取り除いた後、素焼きした鉢に土をしばらく入れて水分を吸わせます。これは、素焼きされたものは水分を通すという特性をうまく利用した知恵です。その後の空気を抜くために手でこねる「菊練り」という工程は、体力と技の両方がないとできません。約 10 キロある土のかたまりを回転させながらリズムよく練るので、菊の花びらのような波ができていたのには感動！成形は、基本はろくろで行います。いとも簡単に茶碗や花器の形ができあがっていくので、思わず見入ってしまいました。鹿の皮をすべらせて、表面のでこぼこを滑らかにしたり、指の腹を使いあえて表面に味のある模様をつけたりする繊細な技も見られます。

用双手绝妙的力度拉胚

両手の絶妙な力加減で形を整えていく

和花瓶的胚子，不由赞叹。陶工还为我们展示了很多细致精湛的技巧，比如使用鹿皮将生胚表面磨光滑，抑或用指肚故意在生坯表面划出花纹。

烧陶时会使用手柄一点点调节窑内温度，抑或将烟囱附近的石板移动几毫米来调节进入窑内的空气。这些操作并没有操作规程，全靠谷先生的个人经验与直觉。这正是匠人的技艺啊! 烧成方法分为“氧化”与“还原”两种。比如隔断氧气，通过不完全燃烧来完成“还原”烧制，这样烧出的陶器会呈现出一点粉色的纹路，特别是在白色釉子的映衬下格外赏心悦目。我们还看到很多陶器表面使用青花（以钴为原料的蓝色颜料）来描绘山水花鸟等高知特色风景。在谷制陶所，顾客订购最多的是可杯（酒杯底部开了孔或者底部为圆形，将杯中酒喝干之前不能放到桌子上），从这一点中也可窥见高知人有多么喜欢喝酒与宴会啊，真是别有一番趣味。

谷先生通过被选为“土佐匠人”，得到周围更多人的认可与支持，决心继续提高自己的技艺。他说:“我们始终在制作符合时代特色的产品。正因为如此，制陶所从江户时代一直传承发展至今。制作方法与工序虽然沿用传统，但我想利用传统制陶法制作出符合时代的陶器”，这句话令我们印象深刻。谷先生还提到，今后尾户烧会继续作为高知的一种文化，融入当地人的生活中，如果外国人也对此感兴趣他会非常高兴。

在书法创作时用于稀释墨水的砚水壶

書道の墨を薄める時に使う水差し

焼きの際には、窯の温度をハンドルで少しずつ調節したり、煙突付近に取り付けられた板を数ミリずつずらしたりして空気の入り方を調節します。マニュアルはなく、すべて谷さんの経験によって培われた感覚です。これぞ匠の技！焼き方は「酸化」と「還元」の２種類があります。酸素を遮断して不完全燃焼させる「還元」と呼ばれる焼き方をすると、ピンク色の模様が浮き出ることがあり、白い釉薬がかけられた陶器に映えて、美しいです。表面には呉須（コバルトを原料とした青い顔料）を使って絵付けがされ、山水花鳥など、高知の風土を生かしたものが多くみられました。谷製陶所では、べく杯（底に穴が開いている杯や、底が丸い形をしている杯のことで、飲み干すまでテーブルに置くことができない）の注文が一番多く、高知の人がいかにお酒や宴会が好きかが垣間見られて面白いですね。

土佐の匠に選ばれたことによって、周りの人に励まされ、さらに精進していこうと思ったそうです。「物は時代に合うものを作っていく。だから江戸時代から今の時代まで製陶所が繋がってきている。伝統の作り方や工程はそのままで、それを応用して時代に即したものを作っていきたい」という言葉が印象に残りました。これからは、尾戸焼が高知の一つの文化として、地元の人の生活にとけこみ、外国の人にも興味を持ってもらえたら嬉しい、と谷さんは語ります。

土佐匠人
吉川　毅 先生（染色工艺·香南市）

为庆祝家里生了男孩并祝愿男孩健康成长，每年五月的端午节前后，高知县内的家庭除了悬挂鲤鱼旗外，还经常能看见在天空中迎风飞扬的呼拉呼旗。吉川毅先生被认定为土佐染色工艺匠人，他说:“看到天空中迎风招展的呼拉呼旗，会让人觉得充满勇气与力量，这是呼啦呼旗的魅力之一。”

吉川先生作为吉川工坊的第5代传人，专门从事呼啦呼旗、幡与土佐风筝的制作。他年幼时就经常帮助家人制作呼拉呼旗。从最开始帮忙洗呼啦呼旗（据说清洗一面旗就需要1小时左右!），渐渐开始做一些上色的工作。但是他从小就觉得制作呼啦呼旗是重体力劳动，并且作为上一代传人的父亲也没有说让他将来继承父业，因此他大学毕业后，就选择在香川县内的特殊法人工作。但是，有一次回家探亲时，恰巧看到了顾客预订呼啦呼旗时高兴的样子，对他触动很大。他认识到，虽说能不能把工作做好是自己的责任，但是特别希望自己所从事的工作能够给别人带来快乐，因此决定继承家业。

印染技术不是父亲特意教给他的，而是他在年幼时帮助父亲制作时亲眼看到逐渐领会的。吉川先生说，在创作作品时，最需要注意的是色泽的均衡。因为从小父亲就告诉他，我们的作品是为了庆祝孩子诞生，所以“大胆发挥想象制作，但是不能做得粗枝大叶”，他将父亲的话铭记心中，在制作过程中小心谨慎，防止出现颜色不均或者颜料飞溅。

印染过程中需要使用大小不一的刷子，将颜料混合，整个过程全是手工作业。

土佐の匠
吉川　毅さん（染色工芸・香南市）

男の子の誕生と成長を祝う端午の節句の時期になると、高知県内では鯉のぼりだけでなくフラフが大空にたなびく姿がよく見られます。「空に泳いでいるフラフを見ると勇壮な気分になるのが、フラフの魅力のひとつ」と語るのは、染色工芸の匠である吉川毅さん。

吉川工房の5代目として、フラフ、幟、土佐凧づくりに従事している吉川さんは、幼少の頃からフラフづくりを手伝っていました。フラフ洗い（1枚洗うのに1時間かかるとか！）から始まった手伝いは、徐々に色塗りへと変わっていきましたが、フラフづくりは重労働で幼心にやりたくないと思っており、また先代である父親から家業を継いでほしいと言われたこともなく、大学卒業後は香川県内の特殊法人に就職しました。ところが、実家に帰省中に、フラフを注文したお客さんがすごく喜んでいた様子をたまたま見た吉川さんは、上手く行っても行かなくても自分の責任だが、人に喜んでもらえる仕事がしたいと家業を継ぐことを決心しました。

染物の技術は、先代から教わったのではなく、幼い頃の手伝いを通して見て覚えたものだという吉川さんが、作品作りの際に気をつけていることは、色のバランス。子供の誕生というお祝い事のお手伝いをしているので、「大胆にやるのと雑にやるのとは違う」という先代の言葉を胸に、色ムラや飛び散りがないように丁寧に仕上げています。

染物は、大小様々な刷毛を使い、染料をブレンドしながら、すべて手作業で行われています。湿度によって布の伸びや色が変わるため、ストーブとクーラーを同時に入れて作業をすることもあるとか。

据说在印染脸部图画时，最需要注意的是“鼻子”

顔の筆入れで一番気を遣うのが「鼻」だそう

并且不同的湿度条件下，布料的延展性与颜色也会发生变化，因此制作过程中还会同时使用火炉与空调。

吉川先生说，经常怀着一种将好作品呈现给顾客，让顾客高兴的心态来制作。如果通过口口相传，有新的顾客光临会非常高兴。并且，最近有很多县外的人在夜来节上看到了呼拉呼旗，也开始订购了。

提到呼拉呼旗，一般认为是那种即使距离很远也非常引人注目的大旗，旗上画着金太郎或者武士画。但是吉川先生开始制作挂毯和给女孩用的呼啦呼旗。男孩用的呼啦呼旗通常画风豪迈强劲，女孩用的则色泽明快线条柔软。

吉川先生是高知县内唯一一位制作土佐风筝的继承者。土佐风筝的特点是将风筝的一角朝上放飞，据说战国时代，长宗我部家族在战争时通过放土佐风筝来测量距离敌人城堡的距离。现在也有将土佐风筝装裱用于室内装饰的作品。

用于室内装饰的色泽鲜艳的土佐风筝

インテリア用の色鮮やかな土佐凧

最后，我们询问了吉川先生今后想要挑战什么。他说，“今后想要创作更多用于室内装饰的作品，应该还有很多的可能性，我想要继续探寻。”听着他的陈述，我深刻感觉到他作为匠人一边延续传统，一边挑战新事物的决心。

吉川さんは、お客さんのためにいいものを作って、喜んでもらいたいという気持ちを常に持っており、口コミで注文が入るのが大変うれしいそうです。また最近では、よさこい祭りでフラフを見た県外の方からも注文が入ってくるようになりました。

フラフと言えば、遠くから見ても目立つ大きいサイズのものに金太郎や武者絵が描かれたものが思い浮かびますが、吉川さんの代からタペストリーや女の子用のフラフづくりも始めました。男の子用のフラフは力強く、女の子用のものは、やさしく明るい色づかいになっています。

他为自己的女儿制作了呼啦呼旗，以此为契机，开始创作专门给女孩用的呼啦呼旗

ご自身の娘さんのためにフラフを作ったのがきっかけで女の子用のフラフづくりが始まったとのこと

吉川さんは、県内でただ一人の土佐凧づくりの継承者でもあります。土佐凧は、角を上にして揚げるのが特徴で、戦国時代に長宗我部氏が敵城までの距離を測るために使っていたそうです。土佐凧を額装してインテリアとしても楽しんでもらえる作品もあります。

最後に、今後挑戦したいことをおうかがいしました。「室内用の作品づくりをもっと進めていきたい。まだまだ可能性があると思うので、それを見つけていきたい」と語る吉川さんに、伝統を守りながら新しいものにチャレンジしていく職人の思いを強く感じました。

高知的生活Q＆A“高知家 ALL STARS”

高知の生活Q＆A「高知家 ALL STARS」

Q 我看到有人衣领上佩戴星形徽章，还有人戴着彩虹颜色的星形太阳镜的照片，这些是什么呢？

A 在高知县推出的“高知家”宣传第3季“高知家 ALL STARS”活动中，这些萌物大受欢迎。这项活动旨在向全国展现个性丰富与热情的高知人、还有与高知有渊源的人，也就是说高知家的全体家族成员作为“明星”，将高知的魅力传递给日本全国。比如，可以说自己是“在高知的大自然中悠然自得生活的明星”，将自己的爱好与兴趣作为应征明星的理由。方法是先检索“高知家”，然后将自己的照片上传至高知家主页上的“应征高知家明星”网页。接着像是将眼睛蒙上一样，点击星形太阳镜的贴图。最后，简要介绍一下自己是什么明星就大功告成啦。

成为明星后，会被登录到高知家网页的明星图鉴中，还有可能出演高知的宣传片，或者有机会与高知县出身的著名女演员共同演出。对于个人来说，不仅会留下愉快美好的回忆，也是在将高知的魅力传递给全国。这个“加盟明星项目”的内容每月都会变化，大家敬请期待。大家都来推荐自己喜欢的明星，或者亲自变身明星，让高知变得更加热情似火吧！！

Q 星形のバッジを襟元につけている人や、虹色の星形のサングラスをしている人の写真を見かけるのですが、それらは何ですか？

A 高知県による、「高知家」プロモーション第3弾「高知家 ALL STARS」という取組みの一環で、そのようなグッズが人気となっています。この取組みは、個性豊かであたたかい高知の人や高知に縁のある人、すなわち高知家の家族全員を「スター」として、高知の魅力を全国に伝えようというものです。例えば「高知の大自然の中のびのび暮らスター」などがいて、自分の趣味や好きなことを生かしてスターに応募することができます。その方法は、「高知家」で検索した後、高知家のウェブサイトの「高知家のスターに応募」というページから自分の写真をアップロードします。次に目の上にかぶさるように、星形のサングラスのスタンプを押します。最後に、自分は何のスターであるかの説明文等をつければ完成です。

スターになると高知家サイトのスター図鑑に登録され、高知をPRするための動画に出演できたり、高知県出身の有名女優と共演ができるなどのチャンスがあります。本人にとって楽しい思い出ができるだけではなく、それが高知の魅力となって日本中に発信されるのです。この「スター進出プロジェクト」の内容は毎月変わるので、どうぞ楽しみにしてください。みんなぁも、お気に入りのスターを推薦したり、スターになる応募をして高知を盛り上げていこうや！！

发行：公益财团法人高知县国际交流协会（KIA）
电话：088-875-0022 FAX：088-875-4929 Email：info_kia@kochi-kia.or.jp
投稿：CIR・KIA 职员
中文翻译・校正：張 慧杰（县厅 CIR）
Tosa Wave 博客：http://tosawave.blogspot.jp/ （在博客可以看彩色照片）

発行：公益財団法人高知県国際交流協会（KIA）
電話：088-875-0022 FAX：088-875-4929 Email：info_kia@kochi-kia.or.jp
投稿：CIR・KIA スタッフ
中文翻訳・校正：張 慧杰（県庁 CIR）
Tosa Wave ブログ：http://tosawave.blogspot.jp/（カラー写真をご覧いただけます）